

≪ 小 代 区 ≫

開催日：5月6日（金） 場所：小代区総合センター 2階 大会議室（久保井講堂）

区長参加数：19名

■空き家バンクについて■

【質疑】

昨年、空き家バンクの申請をしたが、費用をかけて図面を揃える等苦勞した。最終的には役場の職員の方に見に来てもらって登録できたが、もしそこで登録してもらえないようなこととなれば今までのことが水の泡になってしまうので、（申請書類を）先に見てもらうことはできないか。

【応答】

ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。今後はまず登録できるような物件かどうか現地確認させていただいて、それから区長様方に書類をお願いするように改めたいと思います。（企画課長）

■緑の募金について■

【質疑】

緑の募金の趣旨について反対していないが、兵庫県には緑税があり、グリーン環境税もある。これを含めると3種類の似たような募金があるため見直したほうが良いのではないか。官庁だと項目、費目が違ったりして、これしか使えないということもあると思うので、必要なところに使えるように考えることはできないか。

【応答】

緑の募金につきましては県の緑化推進協議会が行っており、組織が違いますので、譲与税を使うのは難しいです。募金は年130万くらい集まり、うち半分が1年遅れで助成金として町に支払われます。（農林水産課長）

【質疑】

そのことは承知しているが、緑の募金だけだと大変少額であり、3つの募金は同じような目的のものと理解している、使い方を見直していただけないか。

【応答】

一度、県と協議をしたいと思います。（農林水産課長）

【後日回答】

例年、緑の募金活動につきまして多大なご協力をいただき厚くお礼申し上げます。ご意見のありました緑の募金、県民緑税、森林環境税の概要は別紙「緑の募金等の概要一覧」にお示しするとおりで、豊かな自然景観の保全を主眼に置きながらも、個々の目的や活用方法等は異なるものとなっております。しかし、いずれの制度においても皆様からお預かりする貴重な募金や税金を財源としていますので、関係団体が連携し常に制度のあり方を模索する必要があると考えますので、ご意見につきましては、関係団体にお伝えし情報共有を図ってまいります。

■香住ふるさとまつりの協賛金について■

【質疑】

香美町としての一大イベントなら、香美町民として一体感を持つようにしないとイケないと思う。香住だけではなく、村岡、小代からも協賛金を募ることになっているのだが、香美町のイベントとしての意義をしっかりと町民（区民）に伝えていかないと、不公平感をもってしまう。この依頼文書を読んで香美町民が誇れる重要なイベントだと思えるのか疑問に思う。町長には名誉会長として、この祭りがなぜ大切なイベントだといえるのかご説明願いたい。

【応答】

香美町にお住まいの町民の皆さん、その時期に帰省される出身者の皆さんに楽しんでいただき、参加していただくための、町民あげてのお祭り・花火大会という意義で今後も続けていきたいと思っております。（町長）

【質疑】

この協賛金は香住のふるさとまつりの協賛金であるが、逆に村岡、小代のふるさとまつりの協賛金のお願いも町が斡旋してやってもらえるのか。

【応答】

香住ふるさとまつりは、以前は町民、事業所などの寄付金で経費の大部分をまかなえておりました。しかし、時代の移り変わりとともに事業所などの状況が厳しくなり、そして合併を迎えました。合併後は村岡、小代からも見に来ていただけるように、無償でバスを出したりしております。協賛金については、必ずいただかなければならないものではなく、例年、花火を見ていただいたり、思いに賛同いただける村岡、小代の皆さんにご協力いただければありがたいという思いでお願いしています。また村岡、小代のふるさとまつりにお越しの皆さま

んは、その地域に居住している方がほとんどです、香住のふるさとまつりと少し違うと考えておりますのでご理解をお願いしたいと思います。(町長)

■区長会での各課長からの説明内容について■

【質疑】

緑の募金や赤十字の募金などを説明していただくが、わざわざ課長さんが来ていただく内容ではないと思う。近年、耕作放棄地が増え、観光の基盤である自然・景観・文化も劣化してきている。空き家バンクについても、ただ家を登録するだけではなく、情報を伝えていただく必要がある。「町ではこんな重要な取り組みをやっているので皆さんも勧めてください」と区長達に投げかけるような内容に精査していただきたいと思う。

【応答】

今後の参考にさせていただきます。(町長)

■町道の拡幅について■

【質疑】

町道石寺新屋線に関して、水間で1か所、狭小区間となっている。拡幅ができないのであれば、側溝を掘って水路に蓋をするなど幅を広くしていただきたい。

【応答】

狭小区間については把握しております。以前、改良の話がありましたが事業化に至らなかったと記憶しております。町では、落石対策や日本海津波の対策など様々な事業をしています。道路改良の要望も数多くいただいておりますが、どうしても優先性をつけなければいけません。拡幅が無理なら、側溝を掘って蓋をかけてほしいということですが、そちらについては現場を確認させてもらってよろしいでしょうか。(建設課長)

【後日回答】

全線の拡幅については、同様の道路改良要望が多数あり、様々な事業の優先性等検討するなかで、早期事業着手は困難と考えています。道路側溝の整備については、過去の経緯を確認し検討したいと考えます。

■但馬牛の農業遺産登録について■

【質疑】

コロナの関係で審議が遅れているとのことですが、その後の進捗状況を教えていただきたい。

【応答】

ユネスコの本部がローマにあり、コロナで審査がままならいというような状況でした。また美方郡の協議会の申請内容に少し問題があり、差し戻しをもらっておりました。状況がどのようなになっているか、一度確認をさせていただきたいと思います。(町長)

【後日回答】

世界農業遺産の認定に向け、世界農業遺産等専門家会議（事務局：農林水産省）の助言、指導のもと、「美方郡産但馬牛」世界・日本推進協議会の幹事会において認定申請書の作成を行い、令和2年2月27日に農林水産省を通じて国際連合食糧農業機関（以下FAO）に提出しました。

令和2年11月24日から27日にWEB会議による世界農業遺産科学助言グループ（以下SAG）の審査が行われた結果、令和3年3月29日にFAOから農林水産省を通じて申請書の修正・再提出の指示がありました。

その後、世界農業遺産等専門家会議の助言、指導のもと、認定申請書を修正し、令和3年10月4日に農林水産省を通じてFAOに再提出しました。

なお、SAGの審査開催時期は、農水省へも確認をおこなっておりますが、コロナの関係もあり、スケジュールが示されておらず未定とのことでした。

今後も、「美方郡産但馬牛」世界・日本農業遺産推進協議会では、関係各所と連携し世界農業遺産認定を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

■大谷バイパスの進捗について■

【質疑】

大谷バイパスの2期工事はまだ目途がついていないのか、現在どうなっているのか。貫田から茅野に行く道も狭く、草木が伸びてきているため、子どもたちが通学するには危険であるので推進していただきたい。

【応答】

すでに測量関係は完了しており、詳細設計に向けて調整をしているところです。スケジュールについては、従前、皆様にお示しさせていただいたとおり進めています。通学路の草刈りやグリーンベルトの敷設などは県にお願いしており、可能な限り対策を進めたいと思います。大きな工事ですので地域の皆様に説明をする機会を持たなければならないと思っておりますのでよろしくお願いいたします。(副町長)

■但馬牛を活用した観光について■

【質疑】

小代の里は名牛の里とあるが、何を見るのかよくわからない。あつたづるの生まれた熱田、田尻号を生んだ田尻松蔵さんの家などがあるので、整理をしておく必要がある。少なくとも熱田には行けるように整備しておかないと、名牛の里とは言えない。

【応答】

できる限りそうなるようにしていきたいと思いますが、これは町がすべきことではなく、観光協会や地元が声を出して進めていただき、それを町が協力するようにしたいと考えます。役場の職員は公務員ですので、商売感覚に欠けたところがあります。観光や商売に関わっている方などが但馬牛を世の中に売り出すためにその活用方法を役場に提案していただくことが理想です。観光協会には補助金も出しておりますので、有効活用していただきたい、「それでは足りない、もっとこういうことが絶対必要」という地元の大きな声があれば別途、支援させていただきたいと思います。何もかもを町が行うことはできませんのでよろしくお願ひしたいと思います。(町長)

■区長配布について■

【質疑】

配りものが年々多くなってきている。用紙も分厚いものが使われており、重たい。一度測ってみると10件分で3キロあった。新屋は80歳を超えた人も配っており、冬、雪の中配ることもあるので減らしていただくとともに、軽い材質の紙を使っていただきたい。

【応答】

内部で検討しますが、町民の皆さんへの情報ですので、量を減らすことはなかなか難しいです。紙の質については検討します。(町長)

【質疑】

他市町や外郭団体のものがどんどん増えていていると思う。お金を払わなくてよいからなど安易な理由で持ってくるものに、区長便を使わせていないか。毎月何種類のものが配られたかチェックしているか。

【応答】

そのことについては正確に把握できていないようです。内容を精査させますし、今後は統計

を取るようにします。(町長)

■学校再編について■

【質疑】

学校再編について小代区はどう考えているか。村岡と統合してバスで通学させるのか。統廃合するとなると残った学校を地域活性化と併せてどう活用するのか。

【応答】

教育振興基本計画で統廃合の見直しを進めており、夏頃までには答えを出すとしています。基本は香住区の6つの小学校、村岡の3つの小学校を中心とした統廃合の検討に入っています。小代に関してはすでに1小1中となっており、小学校の人数が少なくなってきたとはいえ、児童数は50人を超えておりますので、20年先はどうとも言えませんが、10年先まではこのまま進めていくべきと思っております。(教育長)

【質疑】

中学校の統合は、今後20年はないということよろしいか。

【応答】

今のところ少なくとも10年はないと考えております。ひとつの区にひとつの小学校、中学校があってほしいと今は思っております。これに関しては、検討委員会に検討課題として持っていきたいと考えます。(教育長)

■地域コミュニティについて■

【質疑】

高齢化率などが今後どう推移していくのかを地域みんなが寄って共有することは大切で、推進していいと思います。しかし、情報共有をしてもその後、「なんかやりたかったらせいぜい200万円くらいの補助金は出す」という町の考えは冷たいのではないかと思う。みんな情報共有をして、その後も町も一緒に考えていただきたいと思う。

【応答】

地域コミュニティについては現在、区長会で先進地視察など、研修を実施しておりますし、自治会がやるのか他の組織がやるのかなどを模索しております。今後も研修を深めるなど、進めていきたいと思っております。(小代地域局長)

【質疑】

議論するのは賛成ですが、「その後何もしたくないのであれば、座して死を待つのも仕方ないですね」というのは違うのではないかと思います。こうなってきたのは行政にも責任があると思う。弱いところほど助けてやらないといけない、もう少し一緒にやっ払いこうというスタンスが欲しいと思う。

【応答】

この地域コミュニティは、町だけでは取り組めないことについて、それぞれの地域に考えていただくよう投げかけているものです。地域の将来がどうあるべきかを地域ごとに考えていただき、役場も必要であれば職員を配置するなど責任をもって対応させていただきたいと思うが、なかなかこの取り組みに手を挙げていただけないのが現状です。引き続き、町と一体となって取り組んでいただく地域を募集します。区長会を中心に、小代区全体を一つのコミュニティとして、公共交通や少子高齢化などの問題について取り組んでみようという声を地域からあげていただき、役場と一緒に新しい地域コミュニティを作っていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。(町長)

■光ケーブルについて■

【質疑】

過疎の地域こそ、ユニバーサルサービスとして必要だと思っているのですが、業者が敷設していない残り地域の敷設要望は受け入れられない。

【応答】

最近、御崎や八井谷などが町の負担なく敷設でき、現在、おおむね95%はカバーできました。しかし、業者負担によって敷設が完了している所の利用率も50%程度になっているのが現状です。たとえ敷設したとしても、今後、契約が見込めない地域にも敷設をして、ようやく100%になります。さらに奥佐津には大きな問題があり、敷設しようと思うと中継局が必要になります。これは国の補助金の対象外ですので、10年、15年先にまた億単位のお金が必要になります。全部国費でみてもらえるなら今すぐにもできますが難しいです。(町長)

【質疑】

今リモートなどが増え、比較的簡単に敷設できるようになってきている。

【応答】

そのような環境になってきていることによって、一集落、また一集落増え、現在の95%に

届いています。(町長)